

10 浜田圏域（農業・農村）

（1）現状と課題

農業担い手の高齢化や遊休農地の増加等が深刻な問題となる中、農業研修制度等による新規就農者の確保は、集落営農法人、農業参入企業による雇用就農を含め徐々に軌道にのり、赤梨園での第三者継承成立や半農半X実践者が地域に定着するなど、圏域の農業構造にも変化が見られます。

また、水稻の育苗施設や西条柿の選果場・加工場といった農業施設の整備が進みつつあることや有機・エコロジー農産物の生産拡大、産直市への出荷を通じた生産増加などの明るい話題も見られます。

一方では、米価下落をはじめとした農産物価格の低迷に加えて、イノシシ、ツキノワグマなどの有害鳥獣による農作物の直接的被害や、各種生産資材の高騰などによる営農意欲の減退が地域問題となっています。

こうした中、集落営農組織・法人、前プランで育成したサポート経営体を中心に中山間地の水田農業を維持・発展させるとともに、中山間地の特性を活かし、定住・営農モデルを構築し就農志向者への具体的なイメージづくりに役立てること、安全・安心な物づくりを基本とした産直市の更なる発展を目指すことなどで地域の活力向上を図ることが課題となります。併せて、浜田市が「浜田の顔となる農産物」として選定した「大粒ぶどう、赤梨、西条柿」の振興を図るため、市の取組と連動しながら産地活力の向上を図ることが課題となります。

（2）重点的取組の展開方向

① 担い手の育成

浜田市農林業支援センター、浜田市及び江津市の農業再生協議会を中心に行う新規就農者・志向者に対する相談活動や農業研修制度の充実、定住部門を含めた支援体制の強化などを図り、就農者や地域の実情に応じた営農モデルを構築し担い手育成を進めます。特に果樹については、既存園地の有効活用やリース団地の検討を進めていきます。

また、農地の荒廃を防ぎ、農業生産の維持や効率化を図るために、引き続き集落営農組織の育成とステップアップを進めるとともに、サポート経営体を含めた広域連携や経営の多角化等を進めていきます。

② 生産振興

地域の気象条件に応じた米の品種選択・導入や耕畜連携による土づくり、有機・特別栽培などを進めながら販売先を睨んだ米づくりを目指すとともに、米プラスα（大豆、大麦若葉、キャベツ、アスパラガス、しいたけ等）による所得の確保に努めます。

また、大粒ぶどう、赤梨、西条柿産地の維持・拡大、販売強化の取組を展開するとともに、圏域に立地する産直市相互の連携を強め、安全・安心の農産物販売を拡大するなど、地域や担い手の実情に応じた仕組みづくりを進めていきます。

③ 生産基盤

圃場整備、農業用排水施設整備、暗渠整備、農道の新設・改良、農業集落排水整備を行い、農村地域の生産基盤整備や生活環境改善を図るとともに、多面的機能支払交付金制度の活用を通じて農地・農業用施設の保全に向けた地域ぐるみの共同活動を進め、農業用施設の長寿命化を図ります。

④ 地域活性化

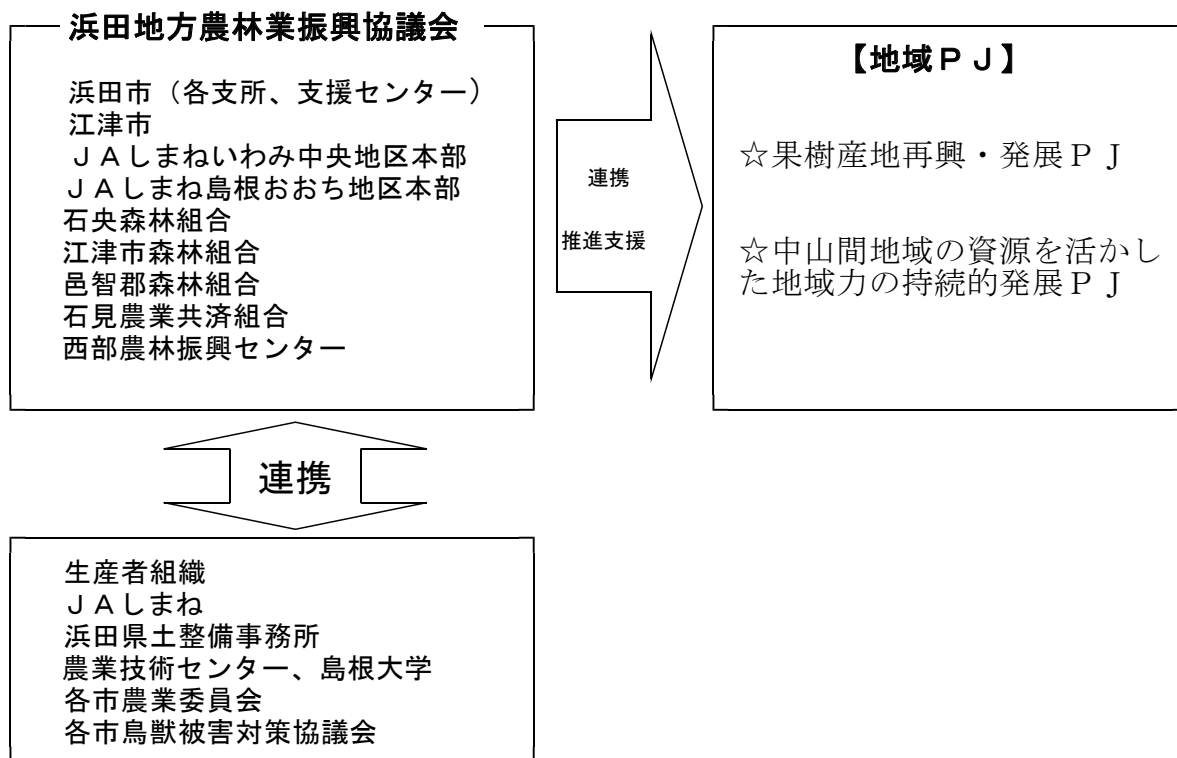
高齢化の進行により住民の減少に歯止めがかからない中、集落営農組織の育成と併せ、これらの集落にU・Iターン者など新規就農者の移住を進めるなど次世代の集落を担う担い手の育成を進めます。

また、有害鳥獣対策については、前プランで進めてきたモデル集落での取り組みの普及・拡大を図るとともに対策マニュアルの実践や見直しを進めていきます。

(3) 主な指標の将来見通

項 目	H26	→	H31	備考
1 農業生産構造				
①農業法人数（法人）	34	→	43	県農業経営課
②新規就農者数	33人／年	→	130人 (H27～31累計)	県農業経営課
2 主要品目の生産（百万円）				
①大粒ぶどう	18	→	20	市調べ
②赤梨	97	→	100	同上
③西条柿（あんぽ柿含む）	59	→	70	同上
④産直販売	324	→	400	JA取扱
⑤有機野菜	431	→	460	市調べ

(4) 推進体制



(5) 地域プロジェクト

- ①果樹産地再興・発展プロジェクト
- ②中山間地域の資源を活かした地域力の持続的発展プロジェクト

浜田-1

果樹産地再興・発展プロジェクト

浜田圏域（浜田市、江津市）

5つの柱の区分 [県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能]

1 目的と取組

目的

浜田圏域では、かねてよりぶどう、赤梨、西条柿などの産地化が図られてきた。近年、生産者の高齢化、後継者不在による離農、資材高騰、単価低迷等による所得の伸び悩み等を背景に、生産者数、栽培面積ともに減少傾向にあり、産地規模縮小や生産者及び生産者組織の活力低下が危惧される状況となっている。

しかし一方で、2期プランで取り組んできた西条柿では、モデル地域での産地ビジョン実践に向けた動きが始まり、赤梨産地での第三者継承の成立や大粒ぶどうの新規就農者園が本格的な収穫を迎えるなど明るい動きも出つつある。

こうした状況の中、浜田市では「将来、浜田の顔となるような農産物」として、「大粒ぶどう、赤梨、西条柿」を選定し、市単事業“浜田市農産物振興プロジェクト事業”を組み、高齢化に対応した省力化やサポート体制の仕組みづくり、新規栽培者確保、産地の生産基盤整備、新商品開発等の取組を展開し始めたところであり、これらの取組と連動しながら、産地の再興・発展を目指していく。

取組

- 新規栽培者の育成・確保と規模拡大志向者への支援
 - ・新植や改植及び規模拡大に要する施設整備など初期投資の軽減方策の検討・支援を行う。
 - ・後継者不在園や遊休施設の有効活用を図る。
 - ・新規栽培者向けの技術の習得支援を行う。
- 産地維持に向けた生産体制づくり
 - ・産地維持に向けた労力補完等、サポート体制づくりを進める。
 - ・省力・低コスト化に向けた新技術導入、施設・機械等の整備及び改植負担軽減等の支援を行う。
 - ・獣害対策の普及及び実践を図る。
- 所得向上に向けた加工品開発、販路確保
 - ・あんぽ柿等の生産基盤の整備、安定生産の推進を図る。
 - ・新商品（こだわり商品、プレミアム企画等）、加工品開発の支援を行う。
 - ・産地情報発信による販路維持と多様な販路開拓（ふるさと納税、観光農園等）を支援する。

プロジェクトの概要

現状・課題

産地縮小 活力低下

<背景・課題>

- ・高齢化、後継者不在による離農
- ・単価低迷等による所得伸び悩み

取組内容

産地拡大の取組

- ・新・改植、施設整備等
- ・後継者不在園等の活用
- ・新規就農者へのサポート

産地維持の取組

- ・サポート体制づくり
- ・省力化、低コスト化
- ・獣害対策の普及・実践

所得向上の取組

- ・あんぽ柿等の生産体制整備
- ・新商品・加工品開発
- ・販路維持・拡大

目指す姿

果樹産地 再興・発展



関係・連携するプロジェクト

- 「儲ける産地」の育成による園芸の再生プロジェクト（県共通）
- 新規就農者の確保・育成プロジェクト（県共通）
- 地域ぐるみの鳥獣被害対策推進プロジェクト（県共通）
- 6次産業化の取組み拡大プロジェクト（県共通）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
新規栽培者の育成・確保と規模拡大志向者への支援	初期投資軽減方策の検討と軽減支援	JA、市（浜田）、西部農振C	H28～31
	後継者不在園地や遊休施設の有効活用推進	市（浜田）、JA、西部農振C	H28～31
	新規栽培者への技術習得支援	西部農振C、市（浜田）、JA	H28～31
産地維持に向けた生産体制づくり	労力補完等サポート体制づくり	市（浜田）、JA、西部農振C	H28～30
	省力・低コスト化推進（新技術導入、施設・機械等の整備及び改植の負担軽減）	JA、市（浜田）、西部農振C	H28～31
	獣害対策の普及及び実践	市、西部農振C	H28～31
所得向上に向けた加工品開発、販路確保	あんば柿等の生産基盤（加工施設、選果場等）の整備、安定生産の推進	JA、市（浜田）、西部農振C	H28～31
	新商品（こだわり商品、プレミアム企画等）開発、加工品開発の支援	JA、市、西部農振C	H28～31
	産地情報の発信による販路維持とふるさと納税、観光農園などを活用した多様な販路開拓支援	市、JA、西部農振C	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項 目	現況（H26）	目標（H31）
新植・改植面積 【地域独自】	0.1ha →	6ha（累計）
3品目販売額（含：加工品） 【地域独自】	174百万円 →	190百万円
新規就農者数（果樹） 【総合戦略】	2人／年 →	6人 (H27～31累計)

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：浜田市、江津市、JAしまねいわみ中央地区本部、西部農林振興センター（農政部、浜田農業普及部、林業部）
- 連携・協力機関：JAしまね、県（農業技術センター、浜田県土整備事務所）、島根大学、（公財）しまね農業振興公社

浜田-2

中山間地域の資源を活かした地域力の持続的発展プロジェクト

浜田圏域（浜田市、江津市）

5つの柱の区分【 県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能 】

1 目的と取組

目 的

高齢化や担い手不足等により水田農業の展望が懸念される状況の中、米政策の見直しや米価の低迷を背景に、農家の生産意欲は減退傾向にあり、不作付地や耕作放棄地の増加が危惧されている。

こうした状況の中、持続的な水田農業の展開には、特色ある米づくりや水田を活用した園芸作物の生産振興等の取組みと併せて、水田農業の主要な担い手たる集落営農組織や2期プランで育成を図ったサポート経営体等の経営力強化を講じていく必要がある。

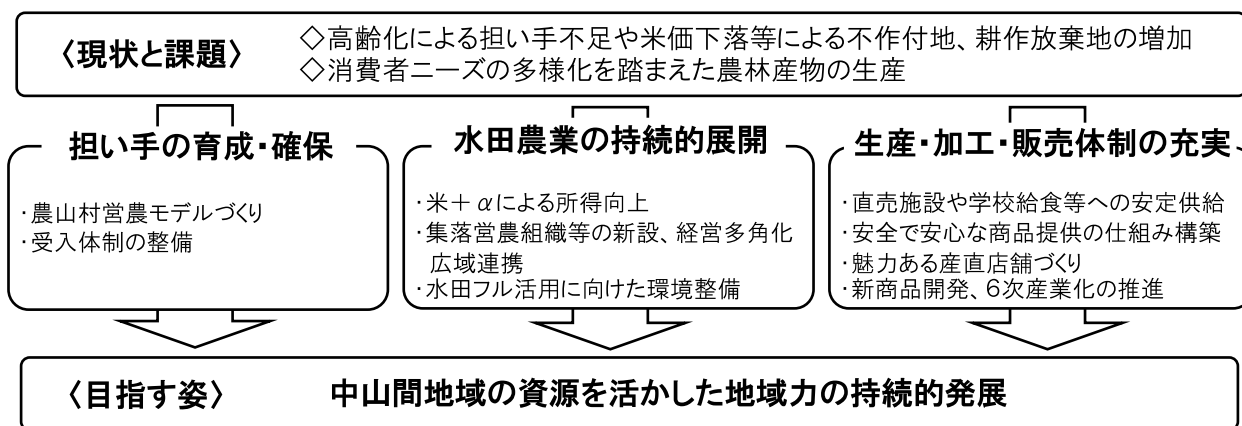
また、近年では、食の安全・安心に対する意識の高まりや消費者ニーズの多様化等を踏まえた農林産物等の生産を始め、2期プランで推進を図り、地域の重要な流通販売拠点となっている産直市を核とした取組の充実が期待されている。

そこで、これまで育まれてきた地域資源や取組のブラッシュアップと併せ、農山村を支える多様な担い手の育成・確保やステップアップを行う中で、農山村の魅力や活力を引き出し、地域力の総合的な向上を目指す。

取 組

- 農山村を支える多様な担い手の育成・確保
 - ・農山村営農モデル（いわみスタイル）の策定を行う（農業（有機農業等）、農業×林業、農業×他産業、農福連携等）。
 - ・多様な担い手等の受け入れ体制の整備と担い手のステップアップを図る。
- 水田農業の持続的展開
 - ・米＋α（大豆、大麦若葉、キャベツ、あすっこ、アスパラガス、しいたけ等）による所得の向上を図る。
 - ・集落営農組織の新規設立やステップアップを進めるとともに、サポート経営体も含めた経営多角化や広域連携を充実する。
 - ・水田フル活用に向けて、日本型直接支払い制度等も活用しながら環境整備等を進める（畦畔除草等省力化、暗渠排水等再整備、鳥獣対策）。
- 中山間地域の特性を活かした農林産物等の生産・加工・販売体制の充実
 - ・ハウス、人工ほだ場、農林水産物加工施設等の整備、コーディネーターの配置等により生産体制を整備し、直売施設や学校給食等への農林産物等の安定供給を進める。
 - ・安全で安心な農林産物提供の仕組みづくりと魅力ある産直店舗づくりを支援する。
 - ・地域資源を活用した新商品開発や6次産業化を推進する。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

○中山間地域の集落維持に必要な仕組みづくりプロジェクト（県共通）○新規就農者の確保・育成プロジェクト（県共通）○地産地消推進プロジェクト（県共通）○地域ぐるみの鳥獣害対策推進プロジェクト（県共通）○6次産業化の取組拡大プロジェクト（県共通）○売れる米づくりに向けた島根米のレベルアップ推進プロジェクト（県共通）○「儲ける産地」の育成による園芸の再生プロジェクト（県共通）○有機農業拡大プロジェクト（県共通）○効率のかつ安定的な経営発展を目指す中核的担い手の育成・確保プロジェクト（県共通）○食の安全・安心推進プロジェクト（県共通）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
農山村を支える多様な担い手の育成・確保	農山村営農モデルの策定	市、西部農振C	H28～31
	多様な担い手等の受け入れ体制整備	市、西部農振C	H28～31
	多様な担い手等の育成・確保とステップアップ支援	市、JA、西部農振C	H28～31
水田農業の持続的展開	米にプラスする複合経営作物の推進	JA、西部農振C	H28～31
	担い手（集落営農、サポート経営体等）の広域連携充実と経営多角化推進	市、西部農振C	H28～31
	集落営農組織の設立及び既存組織のステップアップ支援	市、JA、西部農振C	H28～31
	水田フル活用に向けた環境整備	市、西部農振C	H28～31
中山間地域の特性を活かした農林産物等の生産・加工・販売体制の充実	直売施設や学校給食等への農林産物等の安定供給体制の整備	市、JA、西部農振C	H28～31
	産直施設への安全で安心な農林産物提供の仕組みづくり	JA、西部農振C	H28～31
	消費者との交流等による魅力ある産直店舗づくり	JA、西部農振C	H28～31
	地域資源を活用した新商品開発、6次産業化の推進	市、JA、西部農振C	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項 目	現況（H26）	目標（H31）
農業法人数 【総合戦略】	34法人（累計）	→ 43法人（累計）
新規就農者数（自営） 【総合戦略】	5人／年	→ 24人（H27～31累計）
産直市売上額（6店舗） 【県共通】	324百万円	→ 400百万円

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：浜田市、江津市、JAしまねいわみ中央地区本部、JAしまね島根おち地区本部、西部農林振興センター（浜田農業普及部、林業部）
- 連携・協力機関：JAしまね、県（農業技術センター、浜田県土整備事務所）、（公財）しまね農業振興公社